

教育システム情報学会

Japanese Society for Information and Systems in Education



発行日 2004年 9月30日
発行所 教育システム情報学会
発行者 岡本敏雄
〒661-8520 尼崎市南塚口町7-29-1
園田学園女子大学情報教育センター内
TEL 06-4961-6507 FAX 06-4961-6508
<http://www.jsise.org/>
E-mail:secretariat@jsise.org

ニュース・レター No.131

教育システム情報学会シンポジウム 協調学習と支援技術

教育システム情報学会
CSCLと支援技術特別委員会

日時:2004年10月30日(土)10:00~16:35

場所:上智大学 中央図書館 8階 L-812室

1. 開催の趣旨

20世紀の最後の10年にインターネット・WWWが花開き、真の高度情報通信社会が始まっています。21世紀の初めは高度情報通信社会が充実する時期といえるでしょう。情報インフラはさらに広い範囲に行き渡り、またその質も充実して参ります。

我が国では「2005年に世界最先端のIT国家となる」という目標により、2001年にスタートしたe-Japan戦略の下で情報インフラの整備がすすめられ、2003年には計画を前倒してe-Japan戦略がスタートしています。この第二期計画では「IT利活用による『元気・安心・感動・便利』社会を目指す」ことが目標とされており、社会での情報インフラの本格的な活用が計画されています。教育分野においても今後ますます情報インフラの活用がすすめられるものと思われま

す。一方で教育方法として協調学習が注目されています。グループ学習が従来より広く実践されていますが、行動主義的な教育観から社会的構成主義的な学習観への理念的移行に伴い、グループ活動の場を学習者同士の協調の場ととらえて、新たな試みがなされてきています。

このような協調学習への情報技術の利活用はCSCL(Computer Supported Collaborative Learning)という名称で知られ、研究されています。教育システム情報学会では、本年「CSCLと支援技術特別委員会」を発足させました。協調学習と支援技術の現状分析と共に、これからの教育へどのように利用できるのか、また協調学習によって教育はどのように変わるのか、について調査と提言をして参ります。

本シンポジウムは、そのような試みの一つです。まずは協調学習とその支援技術の現状と将来について、広く教育関係の皆様にご覧いただき、また考える/実践のきっかけとなるべく、趣向を凝らしたプログラムをご用意いたしました。以下のプログラムをご覧いただき、ご参加くださいますようお願いいたします。

次ページへつづく

2. プログラム

9:30~ 受付

10:00~10:30 シンポジウム開催の主旨

岡本 敏雄(学会長, 電気通信大学大学院)

10:30~11:30 特別講演 ユビキタス社会の協調作業支援技術

岡田 謙一(慶應義塾大学)

12:30~14:50 実践事例紹介

初等・中等教育における実践事例

・広がりはじめた学校間交流学習 稲垣 忠(東北学院大学)

・玉川学園 CHaT Net 中村 純(玉川学園高等部)

・Knowledge Forum Japan Project 大島律子(中京大学通信制大学院 / KFJP(静岡大学))

高等教育における実践事例

・集合教育における eラーニングによる協調学習の実践事例

原 潔(日本ユニシス・ソフトウェア), 玉木欽也, 松田岳士(青山学院大学),

斉藤 裕(早稲田大学), 萩谷有紀(日本ユニシス・ソフトウェア)

・Peer Review システムによる匿名協調学習の試み 田中規久雄(大阪大学)

企業教育における実践事例

・教えあい, 学びあう協調学習環境 - 社会人向け UML の学習をとおして -

栗山 健, 高橋昭雄(学習研究社), 池田 満(北陸先端科学技術大学院大学)

・企業教育における事例演習への協調学習システムの適用実験

古賀明彦, 広瀬雅利(日立製作所), 曾山 豊, 木村 誠(中部電力)

15:05~16:35 パネルセッション 協調学習が拓く教育の未来

司会 池田 満(北陸先端科学技術大学院大学)

パネリスト 大島律子(中京大学通信制大学院 / KFJP(静岡大学))

玉木欽也(青山学院大学)

緒方広明(徳島大学)

香山瑞恵(専修大学)

3. 参加費(含 資料代)

事前申込: 1,000 円, 当日申込: 2,000 円 いずれの場合も当日受付でお支払いください。

4. 申込み・問い合わせ先

事前申込(先着順): 所属, 住所, 電話番号, FAX 番号, E-mail アドレスを明記の上, E-mail にて件名を jsise-cscl として 10 月 22 日(金)までにお申し込みください。

申込み・問い合わせ先: シンポジウム事務局(jsise_cscl@ew.cs.inf.shizuoka.ac.jp)

折り返し受付確認メールをお送りしますので, そのプリントアウトを当日受付にご提出ください。

当日申込: 余裕があれば当日も受付いたしますので, 直接会場までお越しください。

5. 会場へのアクセス

上智大学四谷キャンパス(東京都千代田区) 中央図書館 8階 L-812 室

キャンパスまで http://www.sophia.ac.jp/J/first.nsf/Content/acc_y

キャンパスから中央図書館(右上14番)まで

http://www.sophia.ac.jp/J/first.nsf/Content/guide_y

中央図書館内 <http://lux.lib.sophia.ac.jp/opac/service/information/8F.html>

6. 最新情報

詳細なプログラムや最新情報は以下のページをご参照ください。

http://hop.cs.inf.shizuoka.ac.jp/jsise_cscl/info.html

教育システム情報学会第 29 回全国大会を終えて

実行委員長 山崎 敏範（香川大学）

教育システム情報学会第 29 回全国大会は、8 月 20 日（金）～22 日（日）に香川大学で開催した。開催直前の台風来襲予報を気にしながら会場設営準備に追われていた。幸い、台風直撃も受けることなく、大会期間中はむしろ連日の猛暑も少し和らぐ好都合の天候に恵まれた。3 日間にわたる大会では、250 件の発表と 550 名の参加者をお迎えした。

大会事前準備 - 発表申し込み受付、プログラム編成から会場設営 -

全国大会の発表件数は、学会活動のパロメータでもある。200 件以上の発表を目標とするも当初締切日までに集まった発表は 150 件程度であった。企画委員会と諮り急遽、締切日を延長、繰り返し発表を呼びかけたところ、250 件を超える申し込みを受けた。予想を超える申し込みは、実行委員会にも強力な援護と責任を感じさせるとともに、本学会の潜在能力の高さを再認識することにもなった。

企画セッション、一般講演、特別講演、パネル討論会と、今年から正式行事としたワークショップを柱とするプログラム編成では、限られた日程の中に例年を越える発表件数を編成することの難しさを痛感した。日程の枠組み変更をできないことから発表時間の短縮で編成した。

昨年、大型改修した各講演会場は冷房も完備されており胸をなでおろした。ところが、設営を進めるうちに、LAN 環境が未整備であることが判明、これには驚いた。e-Learning をキーワードのひとつに掲げる本学会の全国大会で LAN 環境は欠かせない。急遽、実行委員が自前で線材を張り巡らした。

大会運営 - 研究発表、会場運営から懇親会 -

ワークショップ当日から 100 名以上の予想を超える参会者を迎えた。当日は、本部事務局からの援軍的確な判断と指示ものと整然とした受付体制を取れた。初日の参会者数から論文集の不足を心配、実行委員には論文集配布を見合わせるなど、うれしい誤算でもあった。



受付風景（香川大学）

企画セッションは6つのセッションに分かれ、「組織内教育における e-Learning の新しい展開」(8 件)、「e-Learning 向け動的デジタル教材の制作と配信」(7 件)、「学習モデルの再考と知的学習支援システム」(7 件)、「インターネット新技術による学習環境の展開」(7 件)、「高等教育における ICT 利用システム(遠隔教育、生涯教育を含む)」(8 件)、「情報科教育法の実践と評価」(6 件)の魅力的なテーマで計 43 件の発表が行われた。

一般講演（英語セッション含む）は全部で 183 件の発表があった。詳細は、協調学習（8 件）、知的学習環境（15 件）、情報倫理（8 件）、語学教育（13 件）、マルチメディア利用（8 件）、情報教育（8 件）、e-ラーニング（23 件）、プログラミング教育（16 件）、インターネット応用（15 件）、教育方法・評価（13 件）、生体・知覚情報（6 件）、教育実践システム（16 件）、学習コンテンツ（8 件）、コラボレーション（7 件）、教育実践・評価（8 件）、認知・メタ認知（7 件）、英語セッション（4 件）であった。また、14 件のポスタ/デモンストレーションの発表が行われた。大会テーマを反映して、e-ラーニングおよび関連研究の発表が多かった。

講演会場配置がわかりにくい、マイク、プロジェクターの不備など参会者にはご迷惑をおかけした。各部屋にも発表用パソコンの準備をとの要望にも応えられなかった。これらの不備にも座長をはじめとする参会者の臨機応変のご協力を得て進行できた。懇親会も予測を超える参加者を迎えた。追加注文するも不十分な飲食でご迷惑をおかけした。

おわりに - 今後への期待 -

1) 論文は電子受付に

開催決定直後から論文も「電子受付を」との要望を承った。今回はオプションとして論文の電子受付を実施したところ、郵送は数件、ほぼ電子受付であった。郵送分も電子ファイルの送付を依頼し、すべての論文を電子ファイルとして編集できた。締切直前の集中送付やサーバーの不調などを心配した。しかし、2 度にわたる雷停電によるサーバー緊急停止に遭遇しつつもうまく運用できた。

2) 論文集について

個人的には B5 版にも愛着があるが、投稿論文と刷り上り論文との整合性などから A4 版への変更を検討する時期と考える。論文集編集では、申し込み時と送付論文との表題、著者名の変更が多数見受けられた。このチェックと著者索引作成に多大の労力を要する。発表申し込みから論文受付までの作業を上記 1) の電子受付で統一的に扱うことでこれらの編集もミスなくスムーズに進むのではないかと期待する。

大会開催にあたり、コンピュータの教育利用のはしりでもある KANECOM 企画など企画委員会をはじめ本部事務局には、現地実行委員会の意向を最大限受け入れ全面的なバックアップとご指導を頂いた。また、企業展示や広告掲載では多くの企業からご協力を賜った。本学会の今後益々の盛隆を願いつつ、関係各位への多大のご支援ご協力に深く感謝申し上げます。



第 2 日目の特別講演会場風景（右図）
（2004.8.21（土）13：00～14：00）



教育システム情報学会第 30 回通常総会報告

日 時：2004 年 8 月 21 日（土）12：30～13：00

場 所：香川大学（611 講義室）

出席者：256 名（委任状 159 名を含む）

第 2 号議案 2003 年度決算報告および監査報告に関する件

1. 2003 年度の通常会計は、次のとおり承認された。

（単位：円）

2. 2003 年度収支計算書（自 2003 年 4 月 1 日 至 2004 年 3 月 31 日）

1) 通常会計収支計算書

(1) 収入の部

（単位：円）

科 目	2003 年度予算	2003 年度決算	増 減	備 考
1. 入会金	130,000	108,000	22,000	1,000×108 人
2. 会費	6,940,000	6,867,000	73,000	
正会員	6,020,000	5,931,000	89,000	847 人+2,000 円
準会員	320,000	336,000	16,000	84 人
維持会員	600,000	600,000	0	12 社
特殊会員	0	0	0	
3. 資料販売等	2,300,000	2,944,700	644,700	
研究報告	800,000	1,004,400	204,400	年間購読料他
学会誌	1,500,000	1,940,300	440,300	
4. 広告収入	100,000	107,250	7,250	セイエイ印刷他
5. その他	300,000	487,354	187,354	英文誌別刷 (248,500) ハンドブック (115,520) 受取利息(33)他
当期収入合計(A)	9,770,000	10,514,304	744,304	
前年度繰越収支差額	1,584,666	1,584,666	0	
収入合計(B)	11,354,666	12,098,970	744,304	

(2) 支出の部

科 目	2003 年度予算	2003 年度決算	増 減	備 考
1. 印刷費	3,160,000	4,344,521	1,184,521	
学会誌	2,000,000	2,239,723	239,723	(内別刷 344,400)
英文誌	0	1,003,968	1,003,968	(内別刷 138,768)
ニューズレター	300,000	287,280	12,720	
研究報告書	360,000	416,535	56,535	
封筒印刷費	100,000	187,320	87,320	
その他印刷費	400,000	209,695	190,305	
2. 英文誌発行補助	840,000	0	840,000	通常会計として処理
3. 通信費	2,000,000	1,829,714	170,286	
4. 会議費	600,000	752,459	152,459	
5. 旅費	300,000	320,795	20,795	
6. 人件費	2,500,000	2,294,990	205,010	
7. 消耗品費	300,000	224,008	75,992	事務用品費
8. 支部等支援費	480,000	480,000	0	
支部	60,000	60,000	0	3 支部×20,000
研究部会	120,000	120,000	0	6 部会×20,000
委員会	300,000	300,000	0	3 委員会支援費
9. その他	25,000	40,455	15,455	支払手数料他
10. 予備費	1,149,666	150,000	999,666	インフォパ 導入
当期支出合計(C)	11,354,666	10,436,942	917,724	
当期収支差額(A)-(C)	-1,584,666	77,362	1,662,028	
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	1,662,028	1,662,028	

2) 事業会計収支計算書

(1) 収入の部

科 目	2003年度予算	2003年度決算	増 減	備 考
1.全国大会	0	3,553,000	3,553,000	
2.企画セミナー			0	
3.英文誌	840,000	0	840,000	
4.その他				
当期収入合計(A)	840,000	3,553,000	2,713,000	
前年度繰越収支差額	1,384,646	1,384,646	0	
収入合計(B)	2,224,646	4,937,646	2,713,000	

(2) 支出の部

科 目	2003年度予算	2003年度決算	増 減	備 考
1.全国大会		3,542,226	3,542,226	
2.企画セミナー				
3.英文誌	840,000	0	840,000	
4.予備費	1,384,646	0	1,384,646	
当期支出合計(C)	2,224,646	3,542,226	1,317,580	
当期収支差額(A)-(C)	-1,384,646	10,774	1,395,420	
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	1,395,420	1,395,420	

3. 貸借対照表(2004年3月31日現在)

(単位:円)

普通預金(みずほ・麹町東) 1325993	237,512	前受金		71,000
普通預金(みずほ・麹町) 2132303	1,353,322	未払金	英文誌以外 英文誌	263,413 138,768
普通預金(みずほ・本郷通) 8040276	327,774			402,181
普通預金(りそな・塚口) 7016502	106		負債合計	473,181
普通預金(みなと) 1514304	1,531,807			
郵便振替 8-709632	231,190		基本金	4,237,205
郵便定期(基本財産)	4,237,000			
現金(基本財産)	205	別途積立金	通常 事業	0 200,000
現金 (英文:30,239)	48,708			200,000
未収入金	210	次期繰越収支差額	通常(前期分) (当期分) 事業(前期分) (当期分)	1,584,666 77,362 1,384,646 10,774
			資本合計	7,494,653
資産合計	7,967,834		資本負債合計	7,967,834

4. 計算書類に対する注記

次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科目	前期末残高	当期末残高
現金・預金	2,969,312	3,057,448
合 計	2,969,312	3,057,448

第4号議案 2004年度収支予算書(案)に関する件

2004年度の予算案(会計担当理事 大槻理事)

通常会計案について、次のとおり承認された。

2. 通常会計収支予算書

(1) 収入の部

(単位:円)

科目	2004年度予算	2003年度予算	差異	備考
1. 入会金	130,000	130,000	0	1000円×130人
2. 会費	7,250,000	6,940,000	310,000	
正会員	6,160,000	6,020,000	140,000	7000円×880人
準会員	340,000	320,000	20,000	4000円×85人
維持会員	750,000	600,000	150,000	50000円×15人
特殊会員	0	0	0	
3. 資料販売等	2,900,000	2,300,000	600,000	
研究報告	1,000,000	800,000	200,000	4000円×250人
学会誌・英文誌	1,900,000	1,500,000	400,000	
4. 広告収入	150,000	100,000	50,000	
5. その他	200,000	300,000	100,000	
当期収入合計(A)	10,630,000	9,770,000	860,000	
前年度繰越収支差額	1,662,028	1,584,666	77,362	
収入合計(B)	12,292,028	11,354,666	937,362	

(2) 支出の部

(単位:円)

科目	2004年度予算	2003年度予算	差異	備考
1. 印刷費	4,560,000	3,160,000	1,400,000	
学会誌合計	2,250,000	2,000,000	250,000	4冊+別刷
英文誌合計	1,000,000	0	1,000,000	1冊+別刷
ニューズレター	290,000	300,000	10,000	6回
研究報告書	420,000	360,000	60,000	6冊
封筒印刷費	200,000	100,000	100,000	
その他印刷費	400,000	400,000	0	会員名簿等
2. 英文誌発行補助	-	840,000	840,000	科目を廃止
3. 通信費	1,900,000	2,000,000	100,000	
4. 会議費	700,000	600,000	100,000	
5. 旅費	300,000	300,000	0	
6. 人件費	2,500,000	2,500,000	0	
7. 消耗品費	250,000	300,000	50,000	
8. 支援費	550,000	480,000	70,000	
支部	60,000	60,000	0	3支部×20000円
研究会委員会	90,000	120,000	30,000	
その他支援費	400,000	300,000	100,000	その他委員会活動補助
9. 賃借料	378,000	0	378,000	新科目
10. その他	25,000	25,000	0	
11. 予備費	1,129,028	1,149,666	20,638	
当期支出合計(C)	12,292,028	11,354,666	937,362	
当期収支差額(A)-(C)	1,662,028	1,584,666	77,362	
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	0	0	

* 紙面の都合上、事業会計は省略しました。

第5号議案 規約改正に関する件
規約の一部改正について、次のとおり承認された。

改正後	改正前
<p>第6条 会員は以下のとおりとする。</p> <p>(1) 正会員 本会の目的に賛同して入会した個人。</p> <p>(2) 準会員 本会の目的に賛同して入会した学生（大学院生を含む。）</p> <p>(3) 企業・団体会員 本会の目的に賛同して入会した企業・団体。</p> <p>(4) 名誉会員 本会に特に功労のあった者で、理事会の推薦を経て承認された個人。</p> <p>第8条 本会の会費は、以下のとおりとする。</p> <p>(1) 正会員 年額 7,000円</p> <p>(2) 準会員 年額 4,000円</p> <p>(3) 企業・団体会員 年額 50,000円（一口）</p> <p>(4) 名誉会員 年額 不 要</p> <p>第9条 正会員、準会員および名誉会員は、機関誌の配布を受け、会員として権利を行使することができる。</p> <p>第10条 企業・団体会員は、本会の事業の成果の報告を受けることができる。なお、一口につきその企業・団体に所属する者を2名まで正会員として登録できる。</p> <p>第20条 本会の会長、次項の会長指名の理事を除く理事、監事、評議員の半数は、正会員のうちから正会員および名誉会員の選挙により選任する。</p> <p>2. 会長は、任期の初頭において評議員の半数および企業・団体会員から理事1名を指名し、理事の中から2名の副会長を指名する。</p> <p>付 則 この規定は2004年9月1日から施行する。</p>	<p>第6条 会員は以下のとおりとする。</p> <p>(1) 正会員 本会の目的に賛同して入会した個人。</p> <p>(2) 準会員 本会の目的に賛同して入会した学生（大学院生を含む。）</p> <p>(3) 維持会員 本会の維持に協力する法人。</p> <p>(3) 特殊会員 本会の目的に賛同し、個人以外の名義で入会したものの。</p> <p>(4) 名誉会員 本会に特に功労のあった者で、理事会の推薦を経て承認された個人。</p> <p>第8条 本会の会費は、以下のとおりとする。</p> <p>(1) 正会員 年額 7,000円</p> <p>(2) 準会員 年額 4,000円</p> <p>(3) 維持会員 年額 50,000円（一口）</p> <p>(4) 特殊会員 年額 20,000円</p> <p>(5) 名誉会員 年額 不 要</p> <p>第9条 正会員、準会員、特殊会員および名誉会員は、機関誌の配布を受け、会員として権利を行使することができる。</p> <p>第10条 維持会員は、本会の事業の成果の報告を受けることができる。</p> <p>第20条 本会の会長、次項の会長指名の理事を除く理事、監事、評議員の半数は、正会員のうちから正会員および名誉会員の選挙により選任する。</p> <p>2. 会長は、任期の初頭において評議員の半数および維持会員から理事1名を指名し、理事の中から2名の副会長を指名する。</p>

第1号議案 2003年度活動報告に関する件

第3号議案 2004年度活動計画（案）に関する件

以上の議案は、紙面の都合上により省略させていただきました。



第 7 回 論文賞



平成 16 年度の論文賞の受賞者の発表が第 30 回通常総会の席上行われ、表彰状が手渡されました。本年度の対象となった論文は Vol.19, No.1 (2002 年) から Vol.20, No.4 (2003 年) に掲載された 2 年間の【原著論文 (ショートノート含む)】です。

【原著論文】問題提示型試験における試験問題抽出のための出題セクション分割法

竹内俊彦, 佐久間章行 (Vol.20 No.1 2003)

【講 評】

問題提示型試験という新しい試験スキームを提案するとともにそのスキームのキーとなる試験問題の出題選択方法を具体的な提案・評価している。新しい学習評価手法の可能性を示したものとして高く評価できる。

本論文は、学力評価と学習支援を視野に入れた研究の成果であり、豊富な実践経験を踏まえた獨創性のある論文として評価される。特に、教材構造を系統的に扱う上での考察は難解な課題への挑戦として興味を持たれるであろう。



総会会場で岡本会長から表彰状が手渡される場面
(写真中央は、竹内俊彦氏 右は、佐久間章行氏)

2004 年度第 4 回研究会のごあんない

テーマ：『インターネット新技術による学習環境の展開』

担当：研究会委員会
米澤 宣義 / 佐々木 整

今年度第 4 回の JSiSE 研究会は、下記要領で電子情報通信学会と情報処理学会の 3 学会共催で実施します。共通のテーマは「ICT を利用した新しい学習環境のデザイン」で、インターネットやコミュニケーション等の技術を利用した新しい教育システムあるいは学習環境デザインに関する研究会です。

発表申込：終了（申込件数 16 件）

開催日時：2004 年 11 月 20 日（土）

会場：北國新聞会館（15 階） 金沢駅よりバス 15 分

金沢学院大学大学院サテライト教室（金沢市香林坊 2-5-1）

原稿提出期限：2004 年 10 月 20 日（水）

連絡先：

工学院大学 情報工学科 米澤宣義 <mailto:ct72058@ns.kogakuin.ac.jp>

拓殖大学 情報工学科 佐々木整 <mailto:sasaki@cs.takushoku-u.ac.jp>

プログラム

（午前の部）

〔挨拶 1〕 8：50～9：00：会場校（樋川先生）

〔セッション 1：コミュニケーション支援〕 座長：松原（広島市大）【ET】

（1）【JSiSE】 9：00～9：20

「携帯電話を用いた授業における e-コミュニケーションシステムの開発」

樋川和伸・岡田政則・中西一夫（金沢学院大）

（2）【JSiSE】 9：20～9：40

「Wiki を用いたコミュニケーション向上の試み」

山下健司（日本 IBM）

（3）【JSiSE】 9：40～10：00

「コミュニケーション効果の計量」

岡田政則・樋川和伸（金沢学院大）

〔セッション 2：情報（処理）教育カリキュラム〕 座長：大岩（慶応大）【CE】

（4）【ET】 10：10～10：30

「短大での情報処理教育カリキュラムの提案」

吉田典弘（相模女大）

（5）【ET】 10：30～10：50

「SDD を利用した情報処理システム設計演習」

飯倉道雄・林田熙・吉岡亨（日工大）

〔セッション3：情報教育の基礎〕 座長：樋川（金沢学院大）【会場】

(6)【CE】11：00～11：25

「Computer Science 教育と情報教育」

大岩元（慶大）

(7)【CE】11：25～11：50

「情報行為としての応用ソフト操作教育の基底 - (仮称)ソフトウェア・リテラシーの概念からの考察 - 」

水島賢太郎（神戸女短大）

(午後の部)

〔挨拶2〕12：50～13：00：CE担当（川合先生）

〔セッション4：e-learning, 学習支援ツール(1)〕 座長：佐々木（拓殖大）【ET&JSiSE】

(8)【CE】13：00～13：25

「デジタルデータ活用ツールとしてのReKOS」

川井和彦（理化学研究所）

(9)【CE】13：25～13：50

「BNCを利用した英語教材作成とその提供 Web サイトの開発」

佐野洋（東京外大）

(10)【CE】13：50～14：15

「プロジェクト・研究活動支援のための e-Learning システム（数式表示付き）の構築」

江見圭司（金沢工大）

〔セッション5：e-learning, 学習支援ツール(2)〕 座長：辰己（東京農工大）【CE】

(11)【ET】14：30～14：50

「日本語テキストの畳み込み型要約のための単語・文間の関連付け手法の提案」

及川中・伊藤久祥（岩手県立大大学院）

(12)【CE】14：50～15：10

「バリアフリー化した遠隔講義システム」

角真慈（北陸先端大学院）

(13)【CE】15：10～15：30

「マルチメディアの取り扱いが容易な授業支援ツールの開発」

横山淳一（富士写真光機）

(14)【JSiSE】15：30～15：50

「IT 教育サポートツール"MultiVNC"の開発」

北川健司・上原光晶・中山亮・大橋拓郎・川本良太・千葉大作（株）アルファシステムズ）

〔セッション6：動機付け, 意思決定支援〕 座長：江見（金沢工大）【CE】

(15)【ET】16：00～16：20

「学習の動機付けに適した対話型オンラインリンク集の開発」

安江正治（宮教大）, 眞壁豊（山形短大）, 阿部勲（石巻工業高校）

(16)【ET】16：20～16：40

「トラブルを自己解決しようというやる気を出させるユーザサポートの研究」

中谷桃子・宮本勝・米村俊一・渡辺昌洋・小川克彦（NTT サイバソリューション研究所）

(17)【JSiSE】16:40~17:00

「ビジネスゲーム実施時における学習者の意思決定状況」
木村彰秀・松永公廣（摂南大学）

(18)【JSiSE】17:00~17:20

「学習者の関心の変容に関するコンセプトマップ分析手法」
中澤正江・池田満（北陸先端科学技術大学院大学）

〔セッション7：一般〕 座長：松居（早稲田大）【CE&ET&JSiSE】

(19)【ET】17:30~17:50

「About the interest that my college students showed to the contents of the English textbook about NGO and of two movies(本校学生がNGOの英語教科書と二つの映画の内容に対して示した興味について)」

Toshikatsu Kanaya (Ishikawa NCT)(金谷 利勝 (石川高専))

(20)【ET】17:50~18:10

「一大学院カリキュラムビジョンに対するイメージ解析」

北垣郁雄・李東林（広島大），山下元（早大），佐藤章（東洋大），稲井田次郎（日大），但馬文昭（横浜国大），中島信之（富山大），小田哲久（愛知工大）

(21)【ET】18:10~18:30

「温泉での健康教育の効果の事例対象研究 ~ 一般の場合とプログラムに基づいた場合の比較 ~」
松原勇（石川看護大），鏡森定信（富山医薬大）

(22)【ET】18:30~18:50

「折線近似による接続の表示」

村上洋平・宮田昌近（金沢工大）

〔挨拶3〕18:50~19:00：ET&JSiSE 担当（米澤先生）

2004 年度第 5 回研究会 発表募集のお知らせ

テーマ：『高等教育における ICT 利用システム--遠隔教育，
生涯教育を含む--』

担当：研究会委員会
黒瀬 能幸 / 渡辺 成良

社会の高齢化が進み、幅広い年齢層のニーズに対応でき、教室や授業時間に限定されない方法が高等教育に望まれます。本研究会では教授側と学習側の双方向対話環境が提供できる ICT 利用システムなど、この課題に関わる研究を募集します。

開催日：2005年1月22日(土)

開催場所：東京

発表申込締切：2004年11月15日(月)

原稿提出締切：2004年12月30日(木)

申込および原稿送付先：渡辺 成良（電気通信大学 情報通信工学科）

〒182-8585 東京都調布市調布カ丘 1-5-1

Tel-Fax: 0424-85-2128 e-Mail: watanabe@ice.uec.ac.jp



第6回 eラーニング技術特別委員会シンポジウムのご案内

教育システム情報学会
e - ラーニング技術特別委員会
小松 秀園

来る11月8日(月)の14:00~18:00のスケジュールでeラーニング技術特別委員会シンポジウム「大学の求めるeラーニング支援環境」を開催致します。

今回はメディア教育開発センター 研究開発部の中原 淳 先生が「サステイナブルなeラーニングサービスを創造する組織と支援体制」というテーマのボストンのMITで研究されたHOTな研究レポートが計画されています。

また大学で使いやすいeラーニング学習環境を討議するシンポジウムでは経験豊富な先生方の経験と信念に基づいた議論が知識をスキルに発展させる効果が期待できます。

是非皆様のご参加を頂きたくお待ちいたしております。

お申し込みは、

eラーニング技術特別委員会 委員長 小松 秀園 komatu@hot.nttls.co.jp まで、メールでお申込み下さい。

第6回 eラーニング技術特別委員会 シンポジウム開催

日時： 11月8日(月) 14:00~18:00

場所： 産能大学 代官山キャンパス

地図 URL：<http://www.sanno.ac.jp/map/daikanyama.html>

協賛：産業能率大学

シンポジウム テーマ

「大学の求めるeラーニング支援環境」

PART 1 講演~研究報告 14:05~15:40

「サステイナブルなeラーニングサービスを創造する組織と支援体制
- 米国大学を事例 として」

プレゼンター：メディア教育開発センター 研究開発部 中原淳

PART 2 シンポジウム 15:50~18:00

「大学で使いやすいeラーニング学習環境とは」 日本ではどうしたらよいかを

- ・プラットフォーム
- ・コンテンツ開発法
- ・評価
- ・組織
- ・学習サポート

などについて議論する

モデレータ：岩手県立大学 鈴木教授

パネリスト：信州大学 不破教授
名古屋大学 梶田助教授
産能大学 古賀暁彦氏

JSiSE 2005 年度研究会開催ご案内

研究委員会 委員長 伊藤 紘二

2005 年度研究会の開催について、研究委員会からご案内します。会員各位には、奮ってご発表、ご参加下さるよう、お願い申し上げます。なお、学会のホームページでも、開催の詳細を、逐次お知らせ申し上げますので、そちらの方もご覧下さい。

第 1 回研究会

【テーマ】(a) e-Learning 環境のデザイン

(b) e-Learning の実践報告とシステム公開デモセッション

【開催日】連続開催 (a) 2005 年 6 月 3 日 (金), (b) 2005 年 6 月 4 日 (土)

【開催場所】青山学院大学総合研究所 11F19 会議室および 10F18 会議室
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25

<http://aml2.a2en.aoyama.ac.jp/contents7.shtml>

【担当委員】仲林清 (NTT レゾナント), 不破泰 (信州大学), 磯本征雄 (岐阜聖徳大学), 野崎浩成 (愛知教育大学), 松居辰則 (早稲田大学)

【開催趣旨】e-Learning を効果的に推進するためには、システム、基盤、学習支援ソフトウェアコンテンツ開発、教授方法、評価手法、支援体制などのトータルな環境のデザインが重要である。本研究会では、上記の個々に関する研究・開発・実践のみならず、e-Learning の実践におけるトータルなデザインと実践に関する報告を募集する。第 1 日は、デザインに関する講演発表、第 2 日は、システムの実践報告とデモセッションを予定している。ユニークなデザイン、実践やシステムをご披露いただきたい。

【連絡先】松居辰則 (早稲田大学) matsui-t@waseda.jp

第 2 回研究会

【テーマ】マルチメディア教材の作成とその活用について

【開催日】2005 年 7 月第 1 週目の土曜か 2 週目の土曜いずれか 1 日

【開催場所】名城大学天白キャンパス (愛知県名古屋市)

【担当委員】磯本征雄 (岐阜聖徳大), 不破泰 (信州大学), 野崎浩成 (愛知教育大学),

【会場担当】山崎初夫 (名城大), 伊藤敏 (岐阜聖徳大)

【開催趣旨】マルチメディア技術を利用した教材開発やその活用事例について、研究発表を募集します。この研究会では、マルチメディアに限定することなく、教育に関連した研究を幅広く募りますので、奮ってご参加の程、宜しく申し上げます。

【連絡先】野崎浩成 (愛知教育大学) nozaki@aeu.ac.jp

第 3 回研究会

【テーマ】先進的学習支援システム

【開催日】2005 年 9 月下旬

【開催場所】広島地区

【担当委員】平嶋宗 (広島大学), 小西達裕 (静岡大学)

【開催趣旨】学習支援システムの普及に伴い、先進的理論・技術・方法論に基づいて、高度な支援を行うシステムに対する需要も高まりつつあります。本研究会では、学習科学・認知科学・ナレッジマネジメント・協調学習などを基盤とした学習支援システムに関する研究発表を広く募集します。

【連絡先】平嶋 宗 (広島大学) tsukasa@isl.hiroshima-u.ac.jp

小西達裕 (静岡大学) konishi@cs.inf.shizuoka.ac.jp

第4回研究会

【テーマ】Web教育利用における新技術の展開

【開催日】2005年11月

【開催場所】近畿大学（東大阪市）

【担当委員】黒瀬能幸（近畿大学）、柏原昭博（電気通信大学）、渡辺成良（電気通信大学）、林敏弘（香川大学）、

【会場担当】越智洋司（近畿大学：会場担当）

【開催趣旨】Web技術も新しい技術が開発されている。本研究会では、新しいWeb技術動向を見ながら教育利用への可能性を探ることを目的としている。ユニークなアイデアを含んだ発表や実践的な研究発表を期待している。

【連絡先】黒瀬能幸（近畿大学工学部）kurose@hiro.kindai.ac.jp

第5回研究会

【テーマ】教育実践システムと学習評価

【開催日】2006年1月

【開催場所】拓殖大学

【担当委員】米澤宣義（工学院大学）、佐々木整（拓殖大学）

【開催趣旨】今後、ますます入学者の学習能力の分散が大きくなり、また受動的な学習者が増加して、これまでの授業スタイルが成り立たなくなるのは時間の問題であると考えられます。このような学習者の多様化に対して、授業を理解しやすくし学習者のやる気を引き出し、さらに授業を活性化して学習目標をクリアすることを支援するシステム、学習者を多角的にタイムリーに管理するシステム等各種の教育システムを利活用して授業スタイルを変えていく必要があると思われれます。本研究会はすでに教育システムを実践されている方を対象に、使用しているシステムの概要と設計仕様ならびに学習効果（学習評価の方法も含めて）に関する論文を募集します。

【連絡先】米澤宣義（工学院大学）ct72058@ns.kogakuin.ac.jp
佐々木整（拓殖大学）sasaki@cs.takushoku-u.ac.jp

第6回研究会

【テーマ】情報教育の実績と新しい展開

【開催日】2006年3月

【開催場所】東京

【担当委員】松永公廣（摂南大学）、西野和典（九州工業大学）

【開催趣旨】初等・中等教育において情報教育が実施された。それに伴い、大学での情報教育を見直す時期にきたと考えられる。それは社会の要請に答えるのはもとより、初等・中等教育に送り出す教員志望の学生の資質の向上を目指して、大学での教育内容を厳選したり高度化したりするために、これまでの大学が果たした情報教育の実績を評価し、新しい展開を創生する作業に取り組む時期であると考えられる。将来をみつめて、次の10年に耐えられる議論に深めたい。

【連絡先】松永公廣（摂南大学）ey4k-mtng@asahi-net.or.jp
西野和典（九州工業大学）nishino@k.email.ne.jp

国際会議の案内

国際会議は、教育システム情報学会の会員のみなさんからの紹介やインターネット上で流れている CFP 情報をもとに編集されています。会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら、下記までご連絡下さい。また、実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますので、そちらのほうもお待ちしております。

新着情報 4 件

AMT05: The Third International Conference on Active Media Technology

開催日程：2005 年 5 月 19-21 日

主催：IEEE Systems, Man, and Cybernetics Society

論文応募締切：2004 年 11 月 12 日

開催地：香川県高松市

URL: <http://www.eng.kagawa-u.ac.jp/AMT2005/>

再掲載情報 3 件

SITE 2005: Society for Information Technology & Teacher Education

開催日程：2005 年 3 月 1-5 日

主催：AACE

開催地：Phoenix, Arizona, USA

論文応募締切：2004 年 10 月 18 日

URL: <http://site.aace.org/conf/>

WWW2005: The 14th International World Wide Web Conference

開催日程：2005 年 5 月 10-14 日

主催：W3C

論文応募締切：2004 年 11 月 8 日

開催地：千葉市

URL: <http://www2005.org/>

CSCL 2005: Computer Supported Collaborative Learning

開催日程：2005 年 5 月 30-6 月 4 日

主催：International Society of the Learning Sciences 他

論文応募締切：2004 年 11 月 15 日

開催地：台湾台北

URL: <http://www.csc12005.org/>

FIE 2005: Frontiers in Education Conference

開催日程：2005 年 10 月 19-22 日

主催：ASEE, IEEE Education Society, IEEE Computer Society

概要応募締切：2005 年 1 月 10 日

開催地：Indianapolis, Indiana, USA

URL: <http://fie.engrng.pitt.edu/fie2005/>

WMTE 2005: Third IEEE International Workshop on Wireless and Mobile

Technologies in Education

開催日程：2005 年 11 月 28-30 日

主催：IEEE Technical Committee on Learning Technology

論文応募締切：2005 年 6 月 1 日

開催地：徳島

SID2005: Social Intelligence Design 国際ワークショップ

開催日程：2005 年 3 月 24 日～26 日

論文応募締切：2004 年 11 月 22 日

開催地：Stanford University, Stanford, CA, USA

URL:

<http://pbl.stanford.edu/News/SID2005.html>

国際会議案内文責 松田 憲幸 (和歌山大学)

E-mail: matsuda@sys.wakayama-u.ac.jp

新入会員の紹介

新入会員（敬称略）

JSiSE-A0402180	熱田 智士	芝浦工業大学	準会員
JSiSE-A0402181	石田 三樹	広島大学	正会員
JSiSE-A0402182	北詰 恵一	関西大学	正会員
JSiSE-A0402183	小笠原 豊道	四国電力株式会社	準会員
JSiSE-A0402184	森本 康彦	長岡技術科学大学	準会員
JSiSE-A0402185	安藤 雅洋	長岡技術科学大学	正会員
JSiSE-A0402186	山本 幹雄	広島大学	正会員
JSiSE-A0402187	中島 亮一	佐賀大学大学院	準会員
JSiSE-A0402188	山内 長承	東邦大学	正会員
JSiSE-A0402189	後藤 隆之	三育学院短期大学	正会員
JSiSE-A0402190	小川 修史	和歌山大学	準会員
JSiSE-A0402191	山内 祐平	東京大学	正会員
JSiSE-A0402192	岡田 哲男	さいたま市立浦和高等学校	正会員
JSiSE-A0402193	三石 大	東北大学	正会員
JSiSE-A0402194	井口 万由美	佐賀大学大学院	準会員
JSiSE-A0402195	川本 佳代	広島市立大学	正会員
JSiSE-A0402196	吉田 洋	佐賀大学	準会員
JSiSE-A0402197	三本 浩之	北陸先端科学技術大学院大学	準会員
JSiSE-A0402198	佐久間章行	オフィス サクマ	正会員
JSiSE-A0402199	安藤 敏也	北陸先端科学技術大学院大学	正会員
JSiSE-A0402200	藤田 勝貴	株式会社ネットマン	正会員
JSiSE-A0402201	舘 秀典	信州大学	準会員

（2004年7月22日～2004年8月16日）

情報教育シンポジウム

「高校普通教科「情報」への期待と課題」実施報告

情報教育委員会 担当理事 高橋 参吉
委員長 西野 和典

7月31日(土)に、教育システム情報学会と情報処理学会の共催で、標記のような情報教育シンポジウムを東京大学本郷キャンパス内の山上会館で開催しました。

当日は酷暑にも関わらず、大学・高校・専門学校の教員、関連企業の方々など全国から約140名参加し、山上会館の大会議室が満員になりました。本シンポジウムは、JSiSE 情報教育委員会を中心に、多くの方々の協力とご支援を得て約半年をかけて準備してまいりました。

本シンポジウムの開催趣旨は、高等学校で実施されている教科「情報」の現状を振り返り、今後の情報教育の在り方を展望するというものでしたが、参加者の約6割が大学教員であり、高等学校で行われている教科「情報」に対する関心が高いことがわかりました。シンポジウムは午前10時から始まり、まず、両学会長の挨拶のあと、現行の学習指導要領の改訂を指揮された元文部省初等中等教育局長(現東京国立近代美術館長)の辻村哲夫氏が、「新教科「情報」が目指すもの」と題して基調講演を行いました。教科「情報」を創設した背景、情報教育の系統的な展開の必要性、「情報」の教育内容、今後の課題等をお話いただきました。

次に、前京都大学総長の長尾真先生が、「高校における“情報”教育について」講演され、高校で教えるべき“情報”の内容に対して、示唆に富む提言をしていただきました。情報教育を“実用”、“役に立つ”から決別し、学問として、体系的・段階的に基本的概念を教えることの大切さ、例えば基本的なアルゴリズムを教えることの大切さを説かれました。

午後のシンポジウムは、まず特別講演2として、元文部省初等中等教育局主任視学官の岩本宗治氏(現大阪電気通信大学高等学校校長)が「情報教育の進展と学習指導要領の改正」と題して、高等学校教科「情報」が誕生するまでの状況や、現状についての講演がありました。その後、3件の一般講演がありました。まず、現文部科学省の永井克昇情報教科調査官より、教科「情報」を実践する上での課題についての講演があり、次に、高等学校で「情報」の授業を担当されている早稲田大学高等学院の武沢護先生より、高等学校「情報科」の実践報告があり、さらに西野が「情報教育の評価観点と基準」と題して、教科「情報」の評価についての講演を行いました。

その後一旦休憩をとり、「教科「情報」発展のための条件と課題」に関して、パネルディスカッションを開きました。パネルの司会は岡本敏雄会長、パネリストとして大学からは早稲田大学の寛捷彦先生と佛教大学の西之園晴夫先生、高校からは東京都立駒場高等学校の天良和男先生、企業からは日立製作所の石田厚子氏の参加を得て、それぞれの立場から情報教育発展のための提言がありました。その後、シンポジウムの参加者からの意見も交えながら、テーマに沿って興味深い討論が展開されました。シンポジウム後の懇親会にも、50名以上の方々に参加され、冷えたビールを片手に、各所で情報教育についての情報交換が行われました。

このシンポジウムは、多くの方々の協力により実施することができました。とりわけ、文部科学省をはじめ3団体からの後援、さらに、新聞社や情報教育関連の8つの団体からの協賛をいただき、13の企業から広告を掲載していただきました。ご協力・ご支援いただいた関係各団体に対しまして、ここに深く感謝の意を表したいと存じます。

このシンポジウムを機に、さらに一層、高等学校「情報」に対する関心が高まり、今後、情報教育がさらに発展していくことを期待いたします。



教育システム情報学会 主催 シンポジウム

「情報化時代に対応した大学入試と能力評価」実施報告

企画委員会 担当理事 永野 和男
吉田 覚
米澤 宣義

教育システム情報学会主催のシンポジウム『情報化時代に対応した大学入試と能力評価』が聖心女子大学(東京広尾)の宮代ホールで開催された。構内の日本庭園を借景にした明るく格調高い会場に大学、小・中・高等学校、企業など広い分野から総勢 200 名の参加者が集まった。実に盛会であった。今回のテーマへの関心の高さを感じると同時に、緊急性とともに大変難しい課題であるとの認識を感じるものであった。

シンポジウムは、池田央氏(日本テスト学会理事長)による『IT 技術を用いた新しい試験方式への展望』、野嶋栄一郎氏(早稲田大学人間科学部学部長)による『新しい学力観と測定評価の課題』と題した招待講演に始まり、その後、8 人のパネリスト(植野真臣氏(長岡技科大)、永野和男氏(聖心女子大)、対馬勝英氏(大阪電通大)、梅本勝博氏(北陸先端大)、中村直人氏(千葉工大)、辰己丈夫氏(農工大)、吉川厚氏(NTT データ)、山上通恵氏(神戸甲北高))により今回のシンポジウムの主テーマに関して議論を行った。指定討論者は永岡慶三氏(早稲田大)であった。

様々な立場、かつ様々な観点からの研究・開発・実践に関する報告や意見交換がフロアを交えて活発に行われた。日本での CBT 化の問題点、大学の役割、Evidence Based Education、テストの科学性と品質保証、テストの情報開示と手続きの透明性などの今後のテスト方式、テスト制度の問題、学習成果(安定したもの)の評価ではなく学習過程の評価、文脈の中で変化する行動・特性(これをどう測る?)、測定から計測へ(広義の評価へ)などの今後の評価の問題など、本学会が真剣に取り組み解決していかなければならない実に多くの問題点が提起された。

今回のシンポジウムではテーマに関する纏まった成果を得ることは出来なかった(今後の企画段階での課題である)が、テーマに関する多面的かつ多様な情報を共有できたことは大変有意義であった。今



教育システム情報学会企画委員会
文責：松居辰則(早稲田大学)

なお、今回のシンポジウムの資料に残部があります。
入手希望の方は松居(matsui-t@waseda.jp)までご連絡ください。

2004 年度第 2 回研究会の報告

テーマ:e-Learning 向け動的デジタル教材の製作と配信

担当：研究会委員会
磯本 征雄/野崎 浩成/植野 真臣

2004 年度第 2 回研究会は、『e-Learning 向け動的デジタル教材の制作と配信』をテーマとして、長岡技術科学大学マルチメディアシステムセンターにて、開催されました。長岡技科大の植野真臣先生、安藤雅洋先生の多大なるご尽力により、素晴らしい発表会場をご準備して頂きましたこと、心より厚くお礼申し上げます。

研究会当日は、「e-Learning の評価」に関する研究が 2 件、「コンテンツや教材システムの開発」に関する研究が 4 件、その他にも、「大学での授業改善」、「デジタルコミック」、「携帯電話」を扱った研究がそれぞれ 1 件ずつで、合計 9 件の発表がありました。

研究対象は、大学での教育のみならず、中小企業での技能者育成に至るまで幅広い教育分野を扱うものとなりました。いずれの発表でも、フロアとの意見交換が盛んに行われ、質疑の時間が足りないくらい活発な議論がなされました。

研究会終了後に行われた懇親会にも、発表者のほぼ全員が参加し、温かい雰囲気の中で、歓談ができたことはとても有意義だったと感じました。



- ・開催日：2004 年 7 月 24 日
- ・場 所：長岡技術科学大学

1 .ガンマ分布による e ラーニング所要時間データのオンライン解析システムとコンテンツ評価 植野真臣(長岡技術科学大学)

This paper proposes a new automatic characteristics analysis method of e-learning contents by using leaning time data in the learning historical data-base. This paper assumes that learning process is combination of some simple understanding processes contained in the content First; this paper derives the exponential distribution as the learning time distribution corresponding to a simple problem solving process from the Maximizing Entropy principle. By integrating some exponential distributions, the learning time distribution is given by the Gamma distribution. The two parameters and in the model are respectively interpreted as follows. The parameter means “Complexity of the content (which means the numbers of simple understanding processes to understand or solve the content)” and the parameter means

“Easiness of the simple understanding process in the content”. The estimated parameters from the learning historical data in e-learning help characterization of various contents and constructing Meta data for each content. An on-line system by using this evaluation method is developed and it is demonstrated in this paper.

2 .アイマークレコーダを用いた e ラーニングのコンテンツ評価 安藤雅洋, 植野真臣(長岡技術科学大学)

本研究ではより効果的な e-learning コンテンツの作成を行う為、被験者の視点や瞳孔径を測定する装置であるアイマークレコーダで e-learning 受講者の瞳孔径を測定することにより、学習者の興味・集中度の測定を行った。具体的には、： e-learning による学習者の学習意欲及び集中力の持続時間を計測するために瞳孔径の変化する時間をアイマークレコーダより計測した。測定データの移動平均より t 検定を行った結果、学習者の集中力の持続時間は学習開始から概ね 18 分前後であった。：前実験より得られた集中力の持続時間以降数分おきに、学習者の興味を引くような動作を行うアニメエージェントのパフォーマンス(本

研究ではこの動作をキューと呼ぶ)を提示した。結果としてキューを挿入した e-learning コンテンツの受講者は、受講中直線に近い一定の瞳孔径を維持していることが分かった。本研究で使用した e-learning コンテンツにおける3種類の資料の提示形式「文章」「図解付き文章」「動画」について瞳孔径データの変化を分析した。結果として学習者は「動画」「図解付き文章」「文章」の順に興味を示した。また、実験終了後のアンケートからも同様の結果を得られた。

3. 組織知メモリに基づくコンテンツ設計支援 林 雄介(北陸先端科学技術大学院大学), 田中庸平(大阪大学), 池田 満(北陸先端科学技術大学院大学), 溝口理一郎(大阪大学)

組織の成長において知の交流は重要であり、ナレッジマネジメントに代表される知識管理の方法論やその支援ツールが数多く提案されている。その中で、組織の成長に関わる知の交流は組織内のことだけでなく、組織外との交流も重要であると言われている。本研究では、組織内の知の交流モデルを基盤とした組織外への知の発信の枠組みとそれに基づく知の交流支援について検討する。本稿では、知の発信において必要とされるタスクを内容レベルの設計と表示レベルの設計に二分し、それぞれに必要な概念を整理する。そして、各レベルでの設計物の概念と組織知の形成過程を記録した系統グラフを組み合わせることによって、外部に発信する組織知情報のモデルを構成し、組織知発信の内容・意図・表示が対応付けるための枠組みについて議論する。

4. 中小製造業における熟練技能者と若手技能者のコミュニケーションモデルに基づく e-Learning System の開発(2) 白沢 勉, 赤倉貴子(東京理科大学)

本研究では、これまでに開発してきた中小製造業向け e-Learning System において、熟練技能者と若手技能者のコミュニケーションを円滑にするために、コミュニケーションモデルに基づく製品評価コンテンツを実装した。これにより、熟練技能者は時間に制約されることなく若手技能者の製作した製品を Web 上で評価し教材に反映させることが可能となった。その結果、若手技能者に対するの評価結果は的確に伝わる事が確認できた、しかしながら、熟練技能者からの意見として、若手技能者が熟練技能者の作った製品を深く知るコンテンツの必要があることが指摘された。

5. Web 学習活動状況リアルタイム分析のためのツールの試作 喜久川功(東京工芸大学), 横山節雄, 宮寺庸造(東京学芸大学)

近年、多く行われてきている Web を用いた調べ学習において、教師が個々の生徒(グループ)の学習状況を把握することは重要である。しかし、個々において学習活動が異なるために、リアルタイムに状況を把握することは困難である。そこで、個々の生徒(グループ)が、いつ、どんな Web ページに興味をもっているのか、検索活動がスムーズに行われているのか、といった活動状況をリアルタイムに把握するためのツールの開発を試みた。本稿では、リアルタイムなネットワーク侵入検知などで用いられるパケットキャプチャリング技術などを利用して、参照している Web ページの内容をリアルタイムに分析し、特徴キーワードなどを抽出するツールの試作について述べる。

6. 大学生における携帯電話利用の実態調査 - 家族とのコミュニケーションに及ぼす影響の分析 - 廣濱 実, 野崎浩成, 江島徹郎, 梅田恭子, 平田賢一(愛知教育大学)

本研究では、大学生における携帯電話の利用実態を調査した。具体的には、被験者ごとに携帯電話依存度を判定し、依存度の高位群と低位群との間で、それぞれのコミュニケーションの特徴を分析した。その結果、(1)低位群よりも高位群の方が、父親および母親への関係満足度や信頼感が有意に低いこと、その一方で、高位群の方が、友人に対する信頼感が有意に高いこと、(3)さらに、高位群の方が、常時接触願望が強いこと、(4)高位群の方が、家族団欒時における携帯電話利用が有意に高いこと、などが示された。以上の結果から、携帯電話依存度の高い人は、孤独を嫌い常時接続願望が強いので家庭内にも携帯電話利用を広げ、家族団欒の時間でさえ、友人との携帯電話の通話やメール交換を行う傾向がある可能性が示唆された。

7. 授業の多元的記録・分析・構成方法についての基礎的研究 - 大学の授業改善の試み - 平山 勉(名城大学), 後藤明史(名古屋大学), 沢辺良勝(ソニーブロードバンドソリューション株式会社)

講義収録自動アーカイブ・配信を簡易に行うことを可能にした「コンテンツ・クリエーターシステム」は、学習者のための利用だけでなく、FDのツ

ールとして教師自身が使用することができる。このシステムを、平山が授業担当している「教育方法論」と「マルチメディア演習」の二つの授業に適用した。事例の検討を通して、教師の一斉指導形態だけではなく、演習、実習では特に学生の様子を記録することが重要であることを明らかにしている。

8. 映像演出理論を適応したデジタルコミックのアニメーション化への一検討

高田伸彦（金沢学院大学）

現在日本では、年間 5 億冊余りのコミックが、出版され、4000 本余りのテレビアニメが、放映されている。世界で放映されるテレビアニメの 80%は日本の作品で、この市場において、日本の海外文化圏が形成されているといっても過言ではない。この日本の文化であるコミックとアニメーション分野において、Web 上のデジタルコミックで、コミック的色彩を残し、アニメーション化することは、テレビや映画におけるアニメーションとは、異なる表現の創出が可能であると判断した。そこで、デジタルコミックに映像演出の理論を適応し、アニメーション化する制作方法の研究とそれを踏まえた作品を制作したので、ここに報告する。

9. 見て、聞いて、触って操作する教材開発

伊藤 敏（岐阜聖徳学園大学）、井上祥史（岩手大学）

情報教育はコンピュータのハードウェアの仕組みを理解する教育観から、社会の中で情報および情報技術が果たしている役割や影響を理解する教育観へ移行している。そのような中、我々の身の周りでは、携帯電話やマルチメディアだけでなく、家電製品、ロボット、生産現場等で組み込み型コンピュータが活躍している。このような社会背景から、ソフトウェアで「ものを動かす」ことをブラックボックスとするよりは、積極的に取り上げ、コンピュータによる入出力制御を教育的に利用することは意義深いであろう。しかし、一般に入出力制御をするためには、それなりの知識が要求され、制御技術者の養成などで利用を想定した教育プログラムが組まれるのが普通である。そこで、本研究では指令をあたえる CPU として市販のコンピュータを用い、ソフトウェアとして Excel と Visual Basic Application を用いて、USB を通じて外部に取り出した入出力制御基盤を操作するシステムを提案する。



研究報告書のお求めは

なお、JSiSE 会員で「研究報告」の年間購読（購読料は送料込みで年間 4,000 円）をご希望の方は JSiSE 事務局 TEL（06-4961-6507）、E メール（secretariat@jsise.org）までご連絡ください（年間 6 回）。この際、ぜひ購読されますようおすすめいたします（教育システム情報学会研究会委員会担当 / 伊藤紘二）。

2005年7月発行号掲載 特集論文募集

締切り：2004年11月1日

テーマ：ユビキタス/モバイル学習環境

主旨

近年、携帯電話やPDAなどの携帯情報端末の小型化や普及、さらには、学校や駅、家庭などでの無線LANアクセスなどの整備が進み、「いつでもどこでも」学習できる環境が整いつつある。本論文特集では、このようなユビキタス/モバイル学習環境についての理論的・実践的研究を広く募集します。例えば、携帯電話やPDAを用いた新しい学習環境のご提案やユーザモデル、さらには評価方法などの理論的研究はもちろん、GPSやRFIDタグや各種センサー等を用いて、学校・博物館・図書館等での学習・教育を支援するような先駆的な実践研究も歓迎いたします。是非、ユビキタス/モバイル技術を用いた学習環境として、幅広い分野から、将来を見据えた上での積極的なご投稿をお願いいたします。

本論文特集は、ユビキタス/モバイル学習環境に関連する様々な理論的・実践的研究を広く募集致します。具体的なキーワードとしては次のようなものを挙げることができますが、これらに限りません。

携帯電話やPDAなどのモバイル機器を用いた学習環境のデザイン・位置情報などの周辺情報を利用した学習環境や学習者適応モデル・無線LAN、ブルートゥース、赤外線通信等を利用したグループ学習・協調学習環境・RFIDタグ、GPS、センサーネットワークなどのデバイスを利用した学習環境・ユビキタス/モバイル学習環境での学習理論・学習者モデル・評価方法・ユビキタス/モバイル学習環境構築のためのシステムアーキテクチャやその運用方法・博物館、美術館、学校などでの研究実践事例

論文種別

原著論文、ショートノート、実践論文、実践速報を募集します。なお、査読の結果により、異なる種別での採録になることがあります。また、編集委員会の判断により、特集ではなく一般投稿論文としての採録とさせていただきます。

投稿要領

一般の論文投稿規程に準じます。

投稿に際しては、原稿の1ページ目および封筒に「ユビキタス/モバイル学習環境」と朱書きしてください。

スケジュール

投稿締切：2004年11月1日

掲載予定：2005年7月1日発行の学会誌

問い合わせ・原稿送付先

教育システム情報学会事務局

〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7-29-1

Tel：06-4961-6507 Fax：06-4961-6508

園田学園女子大学 情報教育センター内

E mail：secretariat@jsise.org

募集要項

ICT を利用した優秀教育実践 コンテスト 参加募集のご案内

近年の ICT（情報通信技術）を用いた教育の改革は、急速な勢いで進みはじめています。しかしながら、その多くは ICT の技術特性を十分に生かせられず、その機能を活用し切れていない側面もあります。本来、ICT の利用は、合理的（時間、労力、効率）で最大効果（記憶、活用、動機付け）がもたらされるものであり、また、その実現の可能性は高いと考えます。そこで、実践事例を広く募集し ICT が有効に展開している事例を紹介することを目的に、「ICT を利用した優秀教育実践コンテスト」を開催いたします。優秀な取り組みには先行的な努力を称え顕彰いたします。広く多くの機関、グループ、個人から積極的な応募をお待ちしています。

募集対象：

初等中等教育、高等教育、生涯教育、企業内教育、及び、民間教育機関等において、情報通信技術を活用した教育活動を実践している取り組みを対象とします。ただし、2004年度までに実践された活動であること（構想段階のものは対象外です）
なお、応募代表者が、本学会員である必要はありません。

審査方針

1. 実際に運用・実践がなされていることを前提とします。教育効果が検証されていることは特に必要としません。
2. プラットフォームの新規性/先進性、ICT 技術の組み合わせ方の工夫、運用方法の工夫など、多角的に評価します。全てに優れている必要はありません。
3. 次世代につながる実践活動を高く評価します。
4. 同一機関から類似する複数事例の応募があった場合、まとめて審査する可能性があります。

応募方法：申込書に必要事項を記入し、審査資料（ 1 ）を添え、「ICT を利用した優秀教育実践コンテスト応募」と朱書きの上、教育システム情報学会の事務局宛に期日までに送付して下さい。

締 切：2005年1月末日、事務局到着分まで有効とします。

参 加 費：無料

そ の 他：一次審査（書類審査）入賞者には、大阪会場 [3月19日(土) 大阪経済大学] 及び、東京会場 [3月26日(土) 午後、東京理科大学森戸記念館] で行われる発表会でご発表いただきます（詳細は別途連絡。両会場でそれぞれご発表いただけることを歓迎いたします。少なくとも一方の会場にはご参加下さい）。

また、発表会の原稿に基づき、後ほど「事例集」を出版する予定です。

後 援：

(1) 審査資料：(提出いただいた資料は、原則、返却いたしません)

1. 教育の目的、内容等を示す“シラバス”など
2. 情報通信技術の利用方法（A4用紙4ページ程度まで。形式は任意）
3. 実践活動の典型的な様子を記録した写真、実践活動の審査に際し、参考となる資料など。

申 込 先：教育システム情報学会（JSiSE）本部事務局
〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町 7-29-1
園田学園女子大学情報教育センター内

お問合せ：itoh@cs.inf.shizuoka.ac.jp（担当理事：静岡大学情報学部 伊東幸宏）